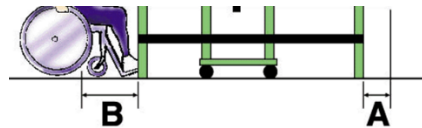


【基本ルールと競技ルール】

※2007年からパラ卓球ルールは、国際卓球ルールの一部となる。

1. 用具及び競技条件

- ① 競技者の足を妨げることなく、車椅子が移動可能であり、ダブルス競技の場合は、2台の車椅子が移動可能であること。



標準	A	28 cm ~ 31.5 cm
車椅子の競技者	B	少なくとも40 cm

- ② 車椅子には、少なくとも2つの大きな車輪と、1つの小さな車輪が付いていること。相手競技者のフットレストや、足が、競技中、床に触れると、ポイントとなる。
- ③ 1つ、または、最大2つまでのクッションが使用できる。その高さ（の合計）は、競技条件において **15 cm以下** に制限されており、その他には、何も車椅子に付属させてはならない。

2. 車椅子競技におけるサービス

『シングルス』

- ① 正規のサービスを出したが、そのボールが、レシーバーのどちらかのサイドラインを（1回または2回以上、バウンドした後で）横切った場合は、レットが宣告される。
※ボールがサイドラインを横切った瞬間に「レット」
- ② 正規のサービスを出し、そのボールを、レシーバーが、どちらかのサイドラインを横切る前に打球した場合、レットは宣告されない。

『シングルスおよびダブルス』

- ① サービスで、出されたボールが、レシーバーのコートに触れた後、ネット方向に戻ったとき、「レット」が宣告される。
- ② サービスで、出されたボールが、レシーバーのプレーイングサーフェスで止まってしまったとき、「レット」が宣告される。

3. 車椅子競技のダブルス

- ① サーバーが最初にサービスを行う。
- ② レシーバーがリターンを行う。
- ③ その後は、障害を持つ組のどちらの競技者がリターンを行ってもよい。
- ④ 競技者の車椅子のどの部分も、テーブルのセンターラインの延長線を越えてはならない。
越えた場合、主審は、相手競技者の組に、1ポイントを与える。

4. 車椅子競技

- ① 相手競技者が、打球する前に、どちらかの手が、テーブル*に触れた場合は、競技者に1ポイントが与えられる。
(*ここで言う「テーブル」は、プレーイングサーフェスだけでなくテーブルの側面なども含む、テーブル全体を指します。
以下の「テーブル*」も同様です)
- ② ラリー中、ラケットハンドが、テーブル*に触れてよいのは、打球直後のみで、バランスを立て直すためであり、テーブル*を動かさない場合に限られる。
- ③ 競技者は、打球する前に、テーブル*を支えにしてはならない。
- ④ 相手競技者が、打球するとき、少なくとも片方の足の大腿部の裏側が、シートまたはクッションに触れていなかった場合、競技者に1ポイントが与えられる。

5. 車椅子で立ってプレーすることは許可されない

- 両脚とも、大腿部の裏側が、車椅子のシートあるいはクッションに触れていなければ、その競技者は立っていることになる。
※ズボンは脚に含まれない。
- **特にクラス4～5の競技者の場合は、この点に注意する必要がある。**

6. 立位競技

- ① ラリー中、フリーハンドが、プレーイングサーフェスに触れることは、認められない。
- ② 打球前に、故意に、支えとしてテーブル*を使うことは、ペナルティーポイント制が適用される。

7. 立位競技及び車椅子競技（トレーニングウェア）

競技中、トレーニングウェアのズボンを身につけてもよい。
しかし、ジーンズは許可されない。